



京都橘大学

KYOTO TACHIBANA UNIVERSITY

公募推薦 直前対策講座  
【基礎テスト対策 国語】

2022年 9月

講師：盛岡 真美子（代々木ゼミナール）

## 一. 出題傾向

### 〈問題構成〉

学校推薦型選抜（公募推薦）の「基礎テスト・国語」では、現代文から四題出題されており、以下のような問題構成になっている。

〔Ⅰ〕 現代文読解（評論文）

〔Ⅱ〕 国語常識（文学史）

〔Ⅲ〕 国語常識（四字熟語・語意・慣用表現・熟語・文法・外来語 など）

〔Ⅳ〕 国語常識（漢字書き取り）

☆ 解答方法はいずれもマーク式。

☆ 試験時間は他科目一つ（英語・数学のいずれか）と合わせて八〇分である。

### 〈出題内容〉

〔Ⅰ〕

・ 現代文の読解問題は、評論文からの出題となっており、文章量は三ページ程度である。

・ 文章内容は標準的で、それほど難解なものではない。

〔Ⅱ〕・〔Ⅲ〕・〔Ⅳ〕

・ 国語常識の問題では、文学史と、四字熟語や語意、慣用表現や口語文法などの知識問題、および漢字の書き取りが出題されている。

### 〈設問内容〉

〔Ⅰ〕 現代文読解（評論文）

・ 接続語の空欄補充問題、語句の空欄補充問題、脱文挿入問題、傍線部（内容・理由）説明問題、内容合致問題など、部分理解の問題から全体理解の問題まで含めて、オーソドックスな出題傾向である。

〔Ⅱ〕・〔Ⅳ〕 国語常識

・ 文学史では、内容に該当する（しない）文学者や作品名を選ばせる問題が出題されている。

・ 四字熟語や慣用表現の問題では、与えられた文の内容に応じた語句を選ばせる問題や、慣用表現の意味を問う問題が出題されている。

・ 口語文法および敬語表現に関する問題や、語意、熟語の構成を問う問題、外来語に関する問題なども出題されている。

・ 漢字の書き取りは、傍線部と同じ漢字を含むものを選択肢から選ばせる問題である。

## 二. 対策

### 〔I〕現代文読解

難易度は標準的であり、特に基礎的な学力の有無が結果を左右するといえる。

(※「基礎⇨簡単」ということではないので注意！)

- ・ 具体的なポイントとして、まず、空欄補充問題への対応が挙げられる。
- ・ 接続語
- ・ 抽象的な語句の意味
- ・ 対比や言い換え表現を意識した文章読解などに留意した読解演習を重ねておこう。

- ・ 脱文補充問題は、脱文の内容をしっかりとチェックすること。特に、指示語や接続語
- ・ 話題となっていることからの確認は大きなヒントとなる。

- ・ 内容読解においては、
  - ・ 段落ごとの話題を押さえ、要点把握を意識しながら読むことを心がけてほしい。その積み重ねが本文全体の内容・主旨把握につながり、内容一致問題にも対応しやすくなる。その際に、
  - ・ 対比関係や因果関係、言い換え表現を押さえ、筆者の主張とその根拠をチェックしながら読むようにしましょう。

### 〔II〕～〔IV〕国語常識

- ・ 文学史では、近代文学史における頻出作家とその代表作品と、代表的な作品の冒頭や結びの部分、作品の概要や文学史のグループ(○○派・△△主義など)とその代表作家についてもしっかりと覚えておくこと。
- ・ 四字熟語や慣用表現(ことわざ)は、国語便覧などを利用して徹底的に対策しておこう。
- ・ 口語文法については、品詞や活用の種類、敬語など、基本的な内容を確認しておくこと。
- ・ 漢字の書き取りは、特に同音異義語や形の似た漢字などに注意！
- また、熟語の意味も合わせて覚えていくと語彙力アップにつながる。

- ☆ いずれも、一朝一夕で身につくものではなく、日々の努力の積み重ねが必要。特に、〔II〕～〔IV〕の国語常識の問題は、きちんと学習すれば確実に得点につながる項目である。その点を意識して、ぬかりなく学習しておいてほしい。
- ☆ また、「試験時間内にきちんと問題を解く」ということも重要である。過去問題集などを利用して、実際に時間を計りながら問題を解く練習を積んでおこう。

I

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歴史上に存在した多数の「世界システム」は、「帝国」と「世界経済」に分類される。

「帝国」とは、世界システム全体が政治的に統合されている場合をいう。システム全体を支配するひとつの政治機構が成立している場合である。歴史的には、この形態の世界システムがほとんどであり、古代の諸帝国や中国の歴代王朝などにその典型を見ることができ。この形態の場合、地域間の結びつきは強くなるが、**A** など、統治のための機構の維持コストが高くつくため、財政的に破綻することが多かった。

これにたいして、われわれの世界システム、つまり「近代の」西ヨーロッパを中核」とした、「資本主義的」な世界システムは、「世界経済」の典型である。**あ**、このシステムがほとんど唯一、例外的に「世界経済」の形態をとっている。

この形態の世界システムは、経済的には大規模な分業体制となっていないながら、政治的には統合されていない。中核国などの国家機構がそれぞれに主権をもっているかたちである。全体を覆う統治機構はないので、コストは圧倒的に安上がりとなり、システムの生命が例外的に長くなる。(①)

「世界経済」は、例外的なかたちなので、近代世界システムでは、その歴史をつうじて、しばしばこれを政治的に統合して——つまり、「世界経済」を「帝国」に転換して——自らシステム全体の支配者となろうとする動きが出現する。しかし、それらの試みは、いずれもコストがかかりすぎて成功しなかった。近代世界システムが一五世紀末から今日まで、五〇〇年以上にわたって生き延びたのは、それが「世界経済」の形態をとったからだと考えられている。(②)

「世界経済」を「帝国」に転換しようとする試みは、すでに近代世界システムの成立期にあたる一六世紀中期にあらわれた。まずはじめに、当時の最強国であったスペインの国王で、神聖ローマ皇帝を兼ねたカルロス一世(カール五世)の試みがあった。しかし、彼の試みは、対抗馬となったフランス王フランソワ一世とのあいだで、「イタリア戦争」をくりかえしたが、けっきょく両王とも、財政破綻によって失脚した。

一八世紀末、フランス革命の混乱のなかから登場したナポレオンの軍事行動もまた、同様の意味をもっていた。ヨーロッパ大陸を支配し、「ナポレオン帝国」を形成した彼は、「大陸封鎖」とロシア遠征によってイギリスに対抗しようとした。しかし、ロシア遠征は失敗に終わり、ヨーロッパ各地のナショナリズムの勃興によって、彼の計画は挫折した。(③)

これにたいして、イギリスは、フランスとはちがって海洋によってつながれた帝国を形成しつつ、直接の政治的支配はしないうままに、ラテンアメリカなど広大な事実上の植民地——「自由貿易帝国」とか、「非公式帝国」とよぶ——を経済的に支配した。(④)

つまり、イギリスは「世界経済」の形態をとった近代世界システムをうまく利用したのにたいして、ナポレオンのフランスは、「帝国」の形態をとろうとしたことが、両者の歴史をわけた。

「ソビエトを中心とする社会主義圏」形成の動きも、見方によっては、そのような「**B**」運動の一種であった、ということもできよう。

もっとも、「世界経済」においても、経済的にひとつのシステムとなっていたわけであるから、そのなかに位置づけられた諸国家はまったく制約なしに動けたわけではない。そうした国家もまた、「インターステイト・システム」とよばれる、世界的な政治上の枠組みに制約されていたのである。この政治上の枠組みは、戦前の歴史学では、「国家系」などとよばれたものにも近い。しかし、「インターステイト・システム」という場合は、あくまで経済的な分業関係が前提になっていることが特徴である。(⑤)

「世界システム」論は、現代の世界が一体化していることを主張する。しかし、一体化しているということは、世界が均質だということわけでは毛頭ない。(⑥)

世界システムは「中核」と「周辺」、あるいはさらにその中間的存在としての「半周辺」からなっている。「中核」は、「周辺」とのあいだの壮大な分業体制を利用してシステム全体の**C**の大半を握っている。「周辺」は経済的に「中核」に従属させられ、文化的にも「中核」のそれが優位に立っている。「中核」は、経済的には製造業や第三次産業に集中し、そこでは「自由な賃金労働」が優越する。産業革命の工場制がもたらした雇用形態はその典型である。

これにたいして、「周辺」は鉱山業や農業のような第一次産業に集中している。その結果、「中核」と「周辺」の貿易は、前者からの工業製品と、後者からの原材料・食糧の交換のかたちをとることになる。この交換の過程で、表面上は等価交換になっているようでも、それを生産するのに要した労力などを考えると、明らかに不平等な交換になっていることが、「南北問題」のような格差を生む原因となる。

い、世界システムは、「中核」と「周辺」の分業体制そのものであるが、貿易が展開すればするほど、両者の「格差」はいつそう強化される傾向をもつ。

「周辺」では、労働は自由な賃金労働ではなく、さまざまな人たちの非自由労働が展開する。カリブ地域の砂糖生産やアメリカ合衆国南部の綿花や、たばこの栽培のための奴隷制プランテーションはその例である。近代初期には、西ヨーロッパに穀物や造船資材や鉄鉱石を提供したもうひとつの「周辺」であった東ヨーロッパでは、伝統的な農奴制度を **D** した「再版農奴制」がひろがった。

このような「非自由労働」でもっとも一般的であったのは、「債務奴隷」である。インドでも前貸し制を前提とした一種の「債務奴隷」制がひろがったし、貧しいイギリス人やフランス人のアメリカ移民の多くも、数年間は「年季奉公人」として強制労働に従事した。奴隷解放後の砂糖植民地などでも、アジア系の「契約労働者」がみられた。南アフリカのアパルトヘイトもその一例である。

「周辺」で、鉱物をふくむ原材料や食料品の大量生産のために開発された鉱山やプランテーションは、「中核」地域における工場制度と並行しているもので、両者はいわば近代世界システムという一枚のコインの表と裏の関係にあった。

「中核」では国家機構が強力となるのを目指して、世界システムの「周辺」に位置づけられた地域では、国家機構は弱体化し、外国資本が自由に活動する植民地的な状況があらわれる。近代世界システムの成立期でいえば、「周辺」となったラテンアメリカの帝国が壊滅させられ、東欧でもポーランドの国家が完全に消滅したのを目指して、西ヨーロッパでは、絶対王政が成立した。

五〇〇年におよぶ近代世界システムの歴史においては、ときとして「中核諸国」のなかの一国が圧倒的な経済力を確立し、他の「中核」諸国を寄せつけない状況が生まれた。このような状態を「ヘゲモニー」(覇権)とよぶ。

ウォーラーステインは、このようなヘゲモニー国家として、一七世紀中期のオランダ、一九世紀中葉のイギリス、第二次世界大戦後のヴェトナム戦争までのアメリカの三つをあげているが、その後の論者のあいだでは、諸説があり、とくにオランダについては異論もある。

ヘゲモニー国家は、農業や工業のような生産の側面で圧倒的優位に立ち、ついで、流通面でも世界商業の実権を握る。その結果、金融の側面でも、阿姆斯特ダム、ロンドン、ニューヨークが相次いで世界の中心となった。こうして、生産・流通・金融の三層のすべてにおいて特定の国の優位が確立していた数十年間が「ヘゲモニー」の状態である。優位は生産・流通・金融の順に確立し、その順に崩壊する。 **う**、一九世紀末のイギリスは、すでに生産などではアメリカやドイツに対抗しきれなくなっていたが、世界の金融は、ロンドン

(4)

ンのシティを中心に動いていた。近年のアメリカも、もはや生産や商業の面では圧倒的優位にはないが、 **え**、世界の金融はドルを機軸として動いている。

ヘゲモニー国家にとっては、圧倒的な競争力を誇っただけに、自由競争がもつとも有利な政策となる。他の「中核」諸国が重商主義政策を採用する時代に、ヘゲモニー国家オランダはグロテウィウスの『海洋自由論』を武器に自由競争を唱え、一九世紀のイギリスも世界で最初の産業革命によって得た圧倒的な経済力を背景に、「イギリスの平和(バクス・ブリタニカ)」を確立して、自由貿易主義を唱えた。二〇世紀のアメリカもまた、自由主義を旗印とした。自由主義は貿易にかぎらず、さまざまな側面におよぶ。祖国を追われた政治家、知識人、芸術家などの亡命者や、高い生活水準に惹かれた貧しい移民などが集中するのは、このためである。

(出典 川北稔編「ウォーラーステイン」なお、問題作成上、一部省略してある。)

問1 空欄 **あ** **え** に入れるのに最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- あ ① というより ② すなわち ③ したがって ④ あるいは
- い ① しかし ② むしろ ③ だから ④ または
- う ① にもかかわらず ② たとえば ③ そして ④ ようするに
- え ① かえって ② あたかも ③ とりわけ ④ なお

ア イ ウ エ  
オ カ キ ク

問2 空欄 **A** **D** に入れるのに最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- A ① 領主制 ② 君主制 ③ 官僚制 ④ 農奴制
- B ① 海外膨張 ② 世界経済 ③ 帝国形成 ④ 自由貿易
- C ① 経済的余剰 ② 経済的制約 ③ 経済的条件 ④ 経済的交換
- D ① 換骨奪胎 ② 取捨選択 ③ 主客転倒 ④ 一視同仁

問3 本文中、次の一文が省略されている。(①)～(⑥)のどこに入れるのが最も適切か、番号をマークしなさい。  
社会主義圏の政府といえども、このような制約をのがれてはいなかったと考えられる。

ケ

問4 ——線「ヘゲモニー国家」の説明として、最も適当なものを、次の中から二つ選び、番号をマークしなさい。

コ

- ① 経済上の圧倒的優位性を確保することで、周辺の国家の領土を次々に併合していくような植民地主義的な覇権国家。
- ② 自由主義を旗印とすることで他国の信頼を獲得し、結果的に圧倒的な物質的豊かさを手に入れることになった政治上の覇権国家。
- ③ 周辺諸国の天然資源を自国に集中させてしまう経済システムを確立するために、圧倒的な軍事力を構築することに成功した帝国主義的な覇権国家。
- ④ 生産や流通、金融などさまざまな領域において圧倒的な競争力を持つことによって、自由貿易が自国に利益をもたらすこととなる経済上の覇権国家。

問5 本文の内容に合うものを、次の中から二つ選び、番号をマークしなさい。ただし、解答の順序は問わない。

シ サ

- ① 諸国家の政治的統合は経済上の世界システムを構築していく上で前提となるものであって、両者がコインの表と裏の関係を形成することで始めて国際的な分業体制は完成する。
- ② 「インターステイト・システム」と呼ばれる政治上の枠組みに組み込まれていくことによって、経済上の格差は解消され、均質な世界が実現されていくことになる。
- ③ 世界システム論においては、「中核」、「半周辺」、「周辺」という三種類の国家に分類されるが、「中核」には第三次産業が集中し、「周辺」には安価な労働力を求めて製造業が集中する。
- ④ 世界的な分業体制にあって、経済的競争力に劣る諸国家においては、「債務奴隷」「年季奉公人」「契約労働者」などさまざまな形の非自由労働が展開されることになる。
- ⑤ 世界システムは「帝国」と「世界経済」に分類されるが、近代世界システムは後者の形態をとり、政治的には統合されていないものの、経済的には国際的な分業体制が形成されている。
- ⑥ 世界システム全体が政治的に統合されたものを帝国主義と言ひ、このような政治システムを採用した国家の場合、体制を維持するために多額のコストが必要となるため、周辺国からの富の収奪を繰り返すことになる。

II

次の1～5は文学作品の冒頭または結びの部分である。それぞれの選択肢の中から作者を一人選び、番号をマークしなさい。(旧仮名遣いは現代仮名遣いに変え、漢字の一部はひらがなで表記している。)

1 あるとしの春、私は、生れてはじめて本州北端、津軽半島を凡そ三週間ほどかかって一周したのであるが、それは、私の三十幾年の生涯に於いて、かなり重要な事件の一つであった。私は津軽に生れ、そうして二十年間、津軽に於いて育ちながら、金木、五所川原、青森、弘前、浅虫、大鰐、それだけの町を見ただけで、その他の町村に就いては少しも知るところが無かったのである。

- ① 斎藤茂吉
- ② 太宰治
- ③ 幸田露伴
- ④ 井伏鱒二
- ⑤ 島崎藤村

ス

2 山路を上りながら、こう考えた。

- ① 遠藤周作
- ② 坂口安吾
- ③ 夏目漱石
- ④ 坪内逍遙
- ⑤ 北村透谷

セ

3 虎は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思つと、また、もとの叢に躍り入って、再びその姿を見なかった。

- ① 中島敦
- ② 石川淳
- ③ 陳舜臣
- ④ 末広鉄腸
- ⑤ 森鷗外

ソ

4 ——こうなれば、もう誰も晒すものはないにちがいない。

- ① 菊池寛
- ② 芥川龍之介
- ③ 有島武郎
- ④ 司馬遼太郎
- ⑤ 直木三十五

タ

5 道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。

- ① 里見淳
- ② 伊藤左千夫
- ③ 志賀直哉
- ④ 川端康成
- ⑤ 佐藤春夫

チ

(6)

III

次の1～5について、最も適当なものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

1 「是々非々」の意味としてふさわしいもの

- ① 良いことは良い、悪いことは悪いと公平な立場で判断すること。
- ② 様々な立場の人々が、自由に議論し合うこと。
- ③ 賛否両論が相容れず、議論が紛糾して収束しないこと。
- ④ どうしても自分の意見を聞き入れてほしいと懇願すること。
- ⑤ 当否や善悪をあれこれ論じるまでもなく、やるしかないこと。

ツ

2 「あいつに頭を下げるなんて、生徒会長の [ ]。「 [ ] の空欄に当てはまる慣用句

- ① 沽券に関わる
- ② 烙印を押される
- ③ 箔がつく
- ④ 堂に入る
- ⑤ 胸がすく

テ

3 上下の漢字の関係が異なるもの

- ① 留意
- ② 利他
- ③ 倒幕
- ④ 洋画
- ⑤ 着席

ト

4 敬語の使い方として誤っているもの

- ① とんでもないことではございません。
- ② お客様がいらっしゃったら応接間に通してください。
- ③ 先生がおっしゃられたことについて質問があります。
- ④ よろしければお荷物をお持ちしましょうか。
- ⑤ 明日弊社の受付でお待ち申しております。

ナ

5 擬声語、擬態語を意味する外来語

- ① アイオム
- ② メタファー
- ③ オノマトペ
- ④ フレーズ
- ⑤ バラグラフ

ニ

IV

次の1～5の傍線部と同じ漢字を含むものを、それぞれの選択肢の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

1 ほころびをツクろう。

- ① 客室ごとにハイゼンする。
- ② 人口がゼンジ減少している。
- ③ エイゼン工事を請け負う。
- ④ カンゼンに回復する。
- ⑤ タイゼンとして構える。

ヌ

2 先生にサされて朗読する。

- ① 目薬をサす。
- ② 花瓶に花をサす。
- ③ 寸鉄人をサす。
- ④ 寒さが肌をサす。
- ⑤ 磁石が北をサす。

ネ



2021年度入学試験問題 解答例

基礎テスト (国語) 学校推薦型選抜 (2020年11月16日実施)

I	問1	あ	ア	1	III	1	ツ	1
		い	イ	3		2	テ	1
		う	ウ	2		3	ト	4
		え	エ	4		4	ナ	3
	問2	A	オ	3		5	ニ	3
	B	カ	3	IV	1	ヌ	3	
	C	キ	1		2	ネ	5	
	D	ク	1		3	ノ	1	
問3		ケ	5		4	ハ	4	
問4		コ	4		5	ヒ	5	
II	問5		サ	4	順不同			
			シ	5				
		1	ス	2				
		2	セ	3				
		3	ソ	1				
	4	タ	2					
	5	チ	4					

1	ツ	1
2	テ	1
3	ト	4
4	ナ	3
5	ニ	3
1	ヌ	3
2	ネ	5
3	ノ	1
4	ハ	4
5	ヒ	5

- 3 ヤツカイ者扱いされる。  
 ① ヤク除けの折願をする。  
 ② 神仏のごりヤクがある。  
 ③ キヤクに従う。  
 ④ ヤクワリを分担する。  
 ⑤ ヤクザイを散布する。
- 4 オンピンに計らう。  
 ① オンネンを暗らす。  
 ② オンミツを聞者ともいう。  
 ③ シャオンカイを開く。  
 ④ フオンな空気を。  
 ⑤ オンドケイで計る。
- 5 チョウダの列ができる。  
 ① 顔面をオウダする。  
 ② ダメで元々。  
 ③ ダエキが出る。  
 ④ 政治がダラクしている。  
 ⑤ 「ダソクながら」は不要だ。

エ

ハ

ノ